

議会改革特別委員会 行政視察報告書

日 程：令和7年2月20日（木）

視 察 先：留萌市、当麻町

視察項目：タブレット端末導入による議会のペーパーレス化について

参加委員：委員 長 鶴岡 恵司
副委員長 田畑 陽美
委 員 有働 正夫・伊藤美恵子・宮澤 孝司
議 長 近沢 弘幸
委員外議員 松原やす子

《視察の背景》

近年、デジタル化の進展に伴い、行政機関や議会でもペーパーレス化が求められています。特に、議会においては、資料の印刷や配布にかかるコストや時間を削減し、効率的な運営を実現するために、タブレット端末の導入が注目されています。これにより、議員が必要な情報を迅速に取得し、議論を深めることが可能となります。

深川市議会においても、ICTの活用推進、議会資料のデジタル化への対応は重要な課題と認識しており、タブレット端末を活用した議会資料のデジタル化を図るため、現在、導入に向け議会改革特別委員会において調査・研究を進めています。

《視察の目的》

●タブレット端末導入の実態把握

先進自治体におけるタブレット端末の導入状況や運用方法を具体的に把握し、深川市議会での導入に向けて参考とする。

●ペーパーレス化による業務効率化の調査

タブレット端末を活用したペーパーレス化が、議会運営や資料管理にどのような影響を与えているのかを確認し、業務効率化の状況などを調査する。

●議員の意見収集

タブレット端末を使用している議員からのフィードバックを収集し、実際の使用感や利便性について理解を深めること。また、導入に際しての課題や改善点についても意見を伺う。

■ 留萌市

《視察時の状況》

- ・ 視察日時 令和7年2月20日（木） 10：30～12：00
- ・ 視察場所 留萌市役所

《留萌市の概要》

留萌市は、北海道の北西部に位置し、ニシン漁とともに発展し、日本一の生産性を誇る「かずの子」をはじめとした水産加工業、国の重要港湾「留萌港」と国道3路線の結末点、さらに高規格幹線道路深川・留萌自動車道の終点に位置する交通・物流の拠点、国や北海道の官公庁が集積したマチです。人口18,405人、世帯数10,592世帯（R6.4.1現在）。面積は297.81km²。議員定数14人。



《視察地選定の理由》

留萌市は人口規模、議員定数など、深川市と類似する自治体であること。また、留萌市議会は、道内市議会の中では早い令和2年4月からタブレット端末を導入し、約5年の運用実績を有するほか、タブレットを導入する道内市議会で数多く採用されているペーパーレス会議システム「SideBooks(サイドブックス)」により運用しているなどの理由から選定に至ったもの。

《タブレット導入の概要》 研修資料から抜粋

(1) 運用開始年月 令和2年4月

(2) タブレット導入の意義及び効果

① データ化（ペーパーレス化）による効果

直接的な効果	資源（紙）の縮減	本会議、委員会、協議の場による資料 164,912枚の縮減
	印刷経費の縮減	予算書（100冊 864,000円）、決算書（73冊 591,300円）、 決算審査意見書（73冊 173,448円） 計 1,628,748円の縮減
	製本事務量の縮減	
間接的な効果	資料の持ち運びの軽減	
	閲覧可能情報量の拡充	
	議員活動の迅速化	
	文書管理業務の撤廃（ファイル等事務費の軽減）	

② 通信体制（ネットワーク）構築に伴う効果

議会スケジュールの共有、招集通知の迅速化、資料配付事務の廃止

(3) 導入したシステム

基本システム	ペーパーレス会議システム「SideBooks クラウドサービス」 ◆多くの議会で採用、円滑に進めている実績のほか、2画面分割・同時閲覧に対応などの理由により選考
スケジュール管理システム	L I N E W O K S（ラインワークス）ライト ◆トーク（チャット）機能、ホーム（掲示板）機能、カレンダー（スケジュール共有）機能などを有する

(4) タブレットの機種（セルラーモデル※）

機種	iPad Pro 12.9インチ（第3世代） 2018.11発売
サイズ・重量	280.6 × 214.9 × 5.9mm 631g
ストレージ及び単価等	64GB 128,800円 × 20台

※セルラーモデルとは、SIMカードを挿入して3Gや4G、LTEの電波を使って通信ができるもの。一方、Wi-Fiモデルは、Wi-Fiに接続して通信するもの。

(5) 導入経費及び維持費

① イニシャルコスト 1,655千円

（タブレット端末費用4,450千円は備荒資金組合活用のため上記に含まない）

② ランニングコスト 歳出2,731千円、歳入178千円（通信料負担金）

《主な質疑》

Q 当初から現在のシステムをすべて整備したのか。また選定理由は。

A タブレット端末導入と合わせてペーパーレス会議システムを導入。当時、2画面表示が可能なのはサイドブックスのみであったため決め手となった。道内での実績が多く、アフターフォローも充実しているため、サイドブックスを採用した。

Q 議案や資料のデータはどれぐらいの期間保存しているのか。

A 文書の保存期限と同じ扱い。過去の議案等データは消去せずに全て残してある。

Q タブレットの操作は議員により個人差もあると思うが対応は。

A 当初、タブレットに抵抗がある議員もいたが、講習会などを重ねるうち触れるようになる。導入されたら覚えようという意欲がわいてくる。事務局なり得意な議員に気軽に聞ける環境にあるので助かる。導入前までは捨てられない資料が増えていく状態だったものがタブレット1台で完結できる。逆に今は紙に戻すことのほうに抵抗がある。

Q 費用対効果などを踏まえた今後の端末更新の考えは。

A 次回の更新はR8を予定。使い勝手は問題ないと感じており、このシステムを継続する考え。印刷の手間が省けFAXも使用しなくなった。費用対効果は非常に高いと感じている。



■ 当麻町

《視察時の状況》

- ・ 視察日時 令和7年2月20日（木） 14：30～16：00
- ・ 視察場所 当麻町役場

《当麻町の概要》

「北海道の屋根」と言われる大雪山の麓、北海道の中核市「旭川市」から北東へ約15km、車で約30分の距離に位置しています。山と河川に囲まれ、南西部から北にかけては山林地帯を形成、自然の丘陵が起伏しながら大雪連峰に連なっています。肥沃な自然の恵みから主要産業の農林業を中心に、鉄工業など商工業も盛んに営まれています。

人口6,118人、世帯数3,046世帯（R6.4.1現在）。面積は204.90km²。議員定数10人。



《視察地選定の理由》

当麻町議会は、令和3年12月からタブレット端末を導入し、3年以上の運用実績を有する。また、先に視察した留萌市議会が採用しているサイドブックスとは別のペーパーレス会議システムで、札幌市議会や近隣町村議会において導入実績のある「more NOTE（モアノート）」で運用している議会を視察することで、システムによる操作・運用面などの違いを比較検討するため選定に至ったもの。

《タブレット導入の概要》 研修資料から抜粋

(1) 運用開始年月 令和3年12月

(2) 導入したシステム

基本システム	会議システム「moreNOTE（モアノート）クラウド版」 ◆操作が単純であること ◆議員活動に際し利活用しやすい（軽量、見やすい）こと ◆使用するクラウドサーバーの容量を1GBずつ追加できること ◆代理店が道内にあり、不測の事態への対応が迅速であること により、タブレット導入推進特別委員会で選定
--------	---

(3) タブレットの機種

機種	iPad Pro 12.9インチ
サイズ・重量	280.6 × 214.9 × 5.9mm 631g
数量	理事者側・議会事務局・予備 計25台 Wi-Fiモデル※ 議員 10台 セルラーモデル※

※セルラーモデルとは、SIMカードを挿入して3Gや4G、LTEの電波を使って通信ができるもの。一方、Wi-Fiモデルは、Wi-Fiに接続して通信するもの。

(4) 導入経費及び維持費

①イニシャルコスト 1,710千円

（タブレット端末は5年のリース契約のため上記に含まない）

②ランニングコスト 2,244千円（R6年度予算）

(5) ICT活用事例

- ・R4年2月 芽室町とZOOM（ズーム）を利用し視察（全議員タブレットで参加）
- ・R4年4月 議会報編集特別委員会でリモート会議により第3校の協議（タブレットを使用し出先も含む全議員が参加）

《主な質疑》

Q タブレット導入によるメリット、デメリットは。

A 書類の差し替えが容易、費用は紙よりもタブレットの方がかかるがそれ以上の効果を実感している。デメリットと言えるものはない。

Q デモンストレーションで比較した際のモアノートとサイドブックスの違いは。

A サイドブックスは機能が多いが、議会で使うにはそこまでの機能は不要と考えた（具体的にどの機能かは不明）。カレンダーとデータを紐づけるカレンダー方式が使いやすいという評価。サイドブックスは本棚のイメージ。

- Q 閲覧してほしいページを表示させる画面共有機能の作業で事務局の負担は。
A 事前にページを調べておき、遅れないように操作をしなければならないことはある。
- Q 紙との併用期間は。
A 最初の臨時会は紙と併用したが、次の定例会からはデータのみとした。
- Q 故障時のベンダー対応は。
A 今までに故障の例はないが、リースのため故障時の対応は迅速（同じモデルを代替えできる）。
- Q 今後の機器やシステムの更新の考えは。
A 今のところシステムの更新は考えていない。購入ではなくリースとしている理由はアフターフォローが充実している。このほか、アプリケーションの保証期間にも対応するため、常に新しい機器を選定する点では、リースの方がメリットは大きいと考える。
- Q 一般質問の原稿など、個人のデータをタブレットに保存しているのか。
A 事務局でデータ保存を対応（一般質問では通告自体を読み原稿としているため）。システム上で個人しか見られないようにすることもできるが対応はしていない。
- Q 理事者側でもシステムを使用しているのか。
A 理事者側で使用するアカウントを付与していて、提案理由など理事者側のみで見ることができるよう対応をしている。
- Q 議員個人の活動には使えるのか。
A あくまで議会の活動でしか使えないこととしている。
- Q ランニングコストは。
A 需用費1万円（消耗品等）、システム利用料223万4千円（リース代含む、理事者端末含む）



《所 感》

～鶴岡委員長～

深川市議会においては、以前よりペーパーレス化に関する議論が行われておりましたが、旧庁舎では Wi-Fi 環境が整っていないため、新庁舎の建設が決定したことを受けて、その時点でペーパーレス化の検討を進めるべきとの意見がありました。

現在、理事者側でもペーパーレス化の推進が図られている中、議会においても、令和 5 年には議会運営委員会の行政視察として岐阜県郡上市に出向き、ペーパーレス化に取り組む事例について研修を実施しました。その結果を踏まえ、議会運営委員会で協議を行い、議会改革特別委員会においてもペーパーレス化についての議論を進めることが確認されました。さらに、議会改革特別委員会では協議を重ね、令和 7 年度に導入することを念頭に予算の確保や行政視察を実施し、導入に向けた協議を進めることが決定されています。

今回、近隣の市町で実際にペーパーレス化（タブレット）を導入している留萌市や当麻町において行政視察を行い、深川市議会での今後の協議に参考となる貴重な意見を伺うことができました。両市町の議員や事務局職員の皆様には、丁寧な対応に心から感謝申し上げます。

この視察の中で、人口や議員数が同程度の留萌市では、データ化（ペーパーレス化）による直接的な効果として、本会議や委員会、協議の場で使用される資料が 164 千枚削減されるなど、紙資源の縮減が実現しています。また、各会計歳入歳出決算書や予算書の印刷経費の削減、製本作業も大幅に軽減されたとのこと。さらに、間接的な効果としては資料の持ち運びが軽くなり、閲覧可能な情報量が増加し、議員活動が迅速化したほか、文書管理業務の撤廃や通信体制（ネットワーク）の構築による議会スケジュールの共有、招集通知の迅速化、資料配布業務の廃止につながったとのことでした。

これらの取り組みは、私たちが想像する以上に議員や議会事務局、市職員の負担軽減が見込まれると感じました。また、費用対効果については、タブレットの購入方法（買い取りかリース契約か）や機能によって経費は異なりますが、紙の印刷や製本にかかる人件費等の経費の削減、ゼロカーボンへの取り組みも考慮する必要があると考えます。

ペーパーレス化は避けては通れない課題であると考えており、今回の行政視察で得た知見を参考にしつつ、更なる協議を進めていきたいと思っております。

～田畑副委員長～

今回、議会でのタブレット端末導入について、留萌市議会、当麻町議会を視察させていただきました。

共に、道内 35 市で初めて、議会運営においてタブレット端末を導入し、会議等をペーパーレスとするためのシステムも導入した稚内市議会を視察し、タブレット端末を導入したとのことでした。

導入に関しては、戸惑いや不安などもあったようでしたが、得意・不得意がある中で

も、今ではスムーズに行われ、文書管理など議会運営の効率化やペーパーレス化による経費削減だけではなく、審査資料の高度化や画面共有ができるため、資料のどの部分を説明しているかを一目で把握することができるなどメリットも多いと感じました。

本市議会においても、ペーパーレスの推進および業務の効率化の他、市民サービスの向上や非常時における相互情報交換手段の確立等の効果を考えると、タブレット端末導入は有効であると考えます。

～有働委員～

市議会のペーパーレス化の視察では、既にタブレットを導入されている留萌市議会と当麻町議会の2か所を視察させていただきました。両議会からは導入の経過や進め方、有効活用の事例など、大変参考になるお話を伺いました。

どちらの議会においても、当初、導入に当たっては議員の方々も不安はあったようですが、使い始めるとそのような不安は払拭され、「導入するのなら早い方がよい」、「早く慣れて有効に使いこなせるようにしたほうがよい」といったご意見をいただきました。

深川市議会においてもペーパーレス化によるコスト削減、議会運営の効率化などのため、導入について積極的に進めるべきと考えます。

～伊藤委員～

今回、留萌市議会、当麻町議会を視察させていただき、タブレットの導入効果は、作業時間の削減、紙等の経費の削減といった定量的な効果だけではなく、時間や場所に左右されず資料を閲覧できることや、過去の資料も含め瞬時に情報を引き出せるといった効果もあり、単に数値化されたものだけで判断することはできないと実感しました。

また、今後、委員会をオンラインで開催することを検討することとなった場合や災害時等における議会対応という面からもタブレット導入の意義はあるのではないかと感じました。

～宮澤委員～

議会のペーパーレス化は多くの自治体議会が取り組んでいるところであり、私も十数年ほど前にタブレットを導入している議員の方から利用内容について伺っており、その頃はまだ多くはありませんでしたが、最近は北海道内でも採用している議会が増えています。

今回、視察を受け入れていただいた留萌市議会、当麻町議会はタブレット導入に積極的で、使用ソフトの違いはありますが、1年で全議員が使いこなせるようになり、導入後に当選した新人議員もタブレット利用が当たり前になっているとのことでした。

数年前から小学校でのパソコン学習が導入されており、議会として自治体行政としてもICT化が早急に求められるところであり、議会活動の充実、業務の効率化を図る上でも早期の導入が必要と考えます。

～松原委員外議員～

どちらの議会議員の皆さんの意見は慣れることで、非常に使い勝手がよいとのことだった。

導入に当たっては、全員が使えるようなシンプルな機種がいいとは思いますが留萌のようにタブレット操作に精通した人を中心に教えてもらいながらの研修もいいのではと思いました。タブレット操作に慣れてくると留萌のように多機能を持ったタブレットの使用も可能かとも思いました。

留萌市議会資料にある「端末機の使用に関する諸事項」「タブレット端末機器の使用基準」等の検討・整備が当然必要になると思います。

積極的な導入賛同者ではないですが、実施に当たっては誰もが困惑することなく使用できるようになる研修を希望します。